

青梅市文化財ニュース

第 56 号

平成 4年 6月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

青梅市内のゲンジボタル

梅雨の季節はホタルの季節でもある。中でも、ゲンジボタルが点滅を繰り返しながら、沢面に沿って群れ飛ぶさまは、実に印象的な光景です。一昔前は各地に生息していましたが、生息環境の悪化により今では棲める所も少なくなっています。多摩地域のあちこちで、いなくなってしまったホタルを復活させようと、養殖し放す試みが行われています。

幸いなことに、青梅市には自然状態でのゲンジボタル生息地がいくつも残っています。私の知る範囲では友田町の大荷田川、長淵の鳶巣川、駒木野の清見川、梅郷の吉野川、小曾木の小布市川、成木6長目から7丁目にかけての成木川などです。この他にも生息地があつて御存知の方もいるのではと思います。見頃は6月中旬から7月上旬まで。岩蔵温泉でホタル祭りが行われるほか、この時期、何ヵ所かでホタルの観察会も催されています。観察には夜の8時がホタルが最も活動する時間帯です。

全国的には国指定の天然記念物に指定されているゲンジボタル生息地が10ヵ所ありますが、青梅市では小布市川流域の厚沢のゲンジボタル生息地を、市指定の天延記念物にしています。

さて、ホタルといっても世界には2000前後の種類がいます。このうち日本には33種が生息しています。この中には光るホタルと光らないホタルがいて、光るホタルは夜行性、光らないホタルは昼行性です。何のために光るのかというと、光の点滅は♂と♀とが互いに見つけ合う配偶行動のためのシグナルなのです。

ゲンジボタルは川に棲み、ヘイケボタルは水田の用水路などに棲んでいます。ゲンジボタルの成虫の寿命は約10日。交尾を終えた♀は川岸の苔などに卵を産みます。ふ化した幼虫は水の中でカワニナを食べながら育ちます。そして、4月中旬の決まって雨の降る暗夜、幼虫は一斉に川岸へ這い上がり土に潜って蛹になります。

したがって、ゲンジボタルが生息するには、カワニナが棲む清流と、コンクリートで護岸されてなく苔などが生える自然度の高い土堤の存在が不可欠なのです。最近では河川の汚染、河川工事によってゲンジボタルの生息地も少なくなりましたが、せめて残された自然状態の生息地は大事に保護したいものです。

(文責 久保田繁男)